

1 主題構成表

主題名「郷土愛」(中学校・第3学年) 資料名「美濃和紙と共に ～藤田一夫翁の半生から～」(藤田 一夫)

<p>■ 内容項目 C (16) 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」 郷土の伝統と文化を大切にし社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p>	<p>■ 内容項目から見た生徒の実態 (意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の授業において、郷土の発展に尽くしてきた人々について学習し、理解と尊敬の念をもつことができつつある。 ・伝統や文化を継承する人々の思いに触れ、地域での行事やボランティア活動に積極的に参加しようとする生徒が増えてきている。 ・地域の伝統や文化等が自分を育ててくれたという自覚や、それらを生み出した先人への尊敬や感謝の念をもち、それを伝承し、持続・発展させようとする姿勢には弱さがある。 <p>(要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己中心的な考えから、自分だけで存在していると考えがちである。 ・社会や生活環境の変化から、伝統や文化に触れる機会が減少してきており、地域全体として、郷土への思いが薄れてきている。 ・学校や家庭において、地域を見つめ、自分と関係付けて考えたりよさを感じたりする機会が少ない。 ・地域社会の一員であるという自覚が十分に育っていない。 	<p>■ 資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙漉きの家に生まれた藤田翁が、祖父や父から紙漉きの方法を教わり、自分で紙を漉くようになる中で、美濃和紙の技術や精神を後世に残したいという思いで学び続けるとともに、美濃和紙の行く末を心配する姿が描かれており、藤田翁の気持ちを考えながら、地域の一員としての自覚を高め、自己の生き方を考えることができる資料である。 ・かなり難しい修行にもかかわらず、一度もやめたいと思わずに紙漉きに打ち込んできたのは、藤田翁の美濃和紙への強い思いがあることをとらえたい。 ・八十歳になる藤田翁の美濃和紙の行く末を心配する姿から、地域の若者たちに対して、文化を守り発展させていって欲しいという願いがあることを捉えて、自分自身の地域との関わりを見つめ直すことができる。
---	---	---

<p>■ ねらい</p> <p>郷土の伝統や文化を守るには、時代の変化の中でも大切にすべき技術や精神を引き継いできた先人の苦労や努力に学ぶことが大切であることに気付き、自分も地域の一員としてできることを考え、更なる郷土の発展に努めていこうとする意欲を育てる。</p>

<p>■ 展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の美濃和紙への強い思いと郷土への愛情が美濃和紙を前向きに勉強する姿に繋がっていることに気付くことができるようにする。 ・先人から受け継ぎ、自分の生涯をかけて守ってきた美濃和紙が、この地域で生き続けることを願う主人公の気持ちを深める。 ・藤田翁への尊敬や感謝の念を膨らませることにより、主体的に郷土の発展に努めていきたいという気持ちをもつことができるようにする。 ・地域社会の一員として、その発展を具体的に描き、自ら進んで関わっていけるようにする。 	<p>■ 基本発問 (◎中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藤田翁が七十年近く「やめたい」と思うことなく紙を漉いてくることができたのは、どうしてだろう。 ◎藤田翁が「美濃和紙の行く末を見定めるまでは、しばらく死ねん」という思いを抱くのは、どんな気持ちからだろう。 ○自分の引き継いできたものを次世代に残したいと願いながら郷土に尽くす藤田翁の生き方から学べることは何だろう。 ○自分の郷土の発展をどのように思い描きますか。そのために踏み出せる一歩を考えよう。
---	--

<p>■ 「私たちの道徳」の活用 (授業前 ・ 授業中 ・ <u>授業後</u> ・ 活用しない) (活用の仕方) P 201、204を読み、郷土へ主体的に関わっていきたいという気持ちを高める。</p>
